

窓の窓



地元を代表する画家・公文秀良さんの絵画展を開催します。

公文秀良さんは1945年に香美市土佐山田町に生まれました。山田高校にも赴任したことがある美術教師だった、画家・福富栄さん（サロン・ド会員、県展無鑑査・審査員）に師事しました。

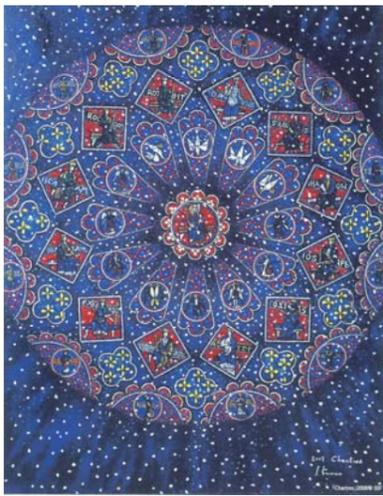
1977年に福富栄さんと古美術研究のため、ギリシャ旅行に行った帰りにパリに立ち寄り、そのままパリに長期滞在し、サロン・ドシエテ・ナシヨナル・ボ

サル展に初入選します。

その後も再三パリに留学し、1981年には同展のほか、サロン・ドートンヌヤル・サロン展に入選し、第13回アカデミー・テス・コンクールでメダール・ベルメール賞を受賞するなど、パリで活躍します。帰国後、二科展への出品や、個展でヨーロッパの風景やアンティークドールなどを描いた油彩画を、近年は県内で水彩の風景画を発表しています。

写真の作品は、2008年に描かれたフランスのシ

KUMON SHURYO 公文秀良展 2月18日(土)~3月20日(火・祝)



▲Chartres

- ★オープニングセレモニー 2月18日(土)
 - 14時00分～ 山中淳二(高知交響楽団所属)フルート演奏
 - 14時30分～ 公文秀良アーティストトーク
- ★公文秀良テーマ別ギャラリートーク(全て14時～)
 - 2月19日(日)「1977年エコール・ド・パリの匂いの残るパリ」
 - 2月26日(日)「福富栄先生と私の事」
 - 3月4日(日)「ヨーロッパ貧乏旅行の勧め」
 - 3月11日(日)「対談」公文秀良×館長
 - 3月18日(日)「対談」公文秀良×館長

ヤルトル大聖堂のステンドグラス(バラ窓)です。深い青色の中に光を通して輝くステンドグラスの色彩が、鮮やかに浮かび上がった美しい作品です。

今回は1970年代の初期から未発表の新作までが一堂に並びます。会期中の公文秀良テーマ別ギャラリートークと共に楽しみてください。ご来館をお待ちしております。

(館長・北 泰子)

吉井勇記念館だより

吉井勇顕彰短歌大会 玉井清弘先生講演会

第9回吉井勇顕彰短歌大会表彰式の終了後に講演会を開催します。講師は今年NHK学園短歌講座「友の会」選者・「音」選者です。大会への作品投稿の有無に関わらず、どなたでもご参加できます。皆さんお誘い合わせの上、ご来場ください。

【日時】3月10日(土) 13時(表彰式開始)

【場所】猪野々集会所(吉井勇記念館隣)

※入場無料

【講師】玉井清弘さん(昭和15年愛媛県生まれ。NHK学園短歌講座「友の会」選者・「音」選者)

【送迎バス】香美市役所西庁舎前より、香美市役所香北支所前経由で、送迎バスを運行します。※要予約

行き 12時発(香北支所前 12時20分)

帰り 15時40分発

【問い合わせ先】吉井勇記念館

☎58・2220

芸術祭短歌会・俳句会

高点賞作品のご紹介

広報香美12月号裏表紙掲載の芸術祭入賞作品の内、短歌会・俳句会の高点賞受賞作品の掲載が抜かっています。掲載いたします。

秋茄子振りて紫紺の水を切る 佐竹 洋子

「そこそこ」と夜毎膏葉貼りあへり 大石 綾子

仲良くも悪くもなし吾ら

香美市文芸

風の流氷

広報委員会 選

◆一般投稿作品◆

山茶花の花にひかれて絵手紙に
土佐はいま珊瑚のとき生薑掘る
柊を挿す母の背の小さかり
水仙の根付きてターシャの強さかな
芋の秋なんののかんと干菓子山
熟し柿小鳥ついでむ日本晴
独り夜の無聊慰む虫時雨
美しや父が遺せし蕙紅葉
少しゆれ九重吊り橋紅葉見て
家事少し済ませて戻る風邪の床
すずしろのきりきり辛き女正月
通りすがりの銀杏黄葉に静心
軒下に暖簾代わりの吊し柿

◆俳句◆

海光の遠くにありて蜜柑山
凍てし草末だ凍てざる草ありて
温州も混ざり柚子風呂にぎやかに
鴨の陣陽当たる方へ組みはじむ
すず生りの柚子そのままに峡師走
浮雲となりて去りゆく時雨雲
石垣を張り巡らせる冬山家
枯蟻螂雨戸の染みに動かさる
遠方の友に文書く小六月
短日やベットの母のひとりごと
石垣に思い出し合い日向ぼこ

公文 春紀
高橋 章
明石ゆきゑ
篠崎 亜希
北村 幸子
西川 常夫
甲藤 卓雄
國澤 英
野崎 典子
北村 里子
小野川順子

肩たたき祖母の重著力入れ
華やける山茶花未練げにこぼる
日向ぼこ時を忘れて転た寝す
冬早嘗て渡舟場ダム底に

かがみ野俳句会

捨て猫に慕ひ寄らるる紅葉寺
茶の花の咲きて夫の忌近づきぬ
銀香散るまつた中へホールイン
鈴の音のジングルベルの保育園
浜辺へと抜ける木立の石露明り
冬夕焼潮目さだかに瀬戸の海
「絆」てふ一字を大書年惜しむ
老ひてなほ夢追ひかけてクリスマス
虎落笛猫の目光る夜の帷

かほく俳句会

掲げるもの主婦には多し十二月
退院す九十路夫婦の煤払ひ
古里の山連綿と柿を吊る
梨収穫終はりし早も柵手入れ
神杉の周りの弊に冬日差す
冬の雲ドラマは坂の上の雲
懐も師走の風に苛まれ
茶の花や詫びたき友の一人あり
枯れ畑に母の背の中の見え隠れ
湖風に雨にへたりし木守柿
潮菊もアコウも室戸ジオパーク
夕仕度厨に芋を転がして
蒟蒻の否応なしに掘り出さる
オリオン座見て椿煮したることも
ガマズミ酒封しつかりと冬に入る
東京は世界の都クリスマス

前田 芳子
明石 英子
中内ゆかり
竹内 ろ草

佐竹 洋子
佐藤 幸
利根 弘子
古川 信子
小松 愛子
中澤 美晴
森本 健代
山崎 鈴子
吉田 芳

乾 真紀子
黒岩 幸女
黒岩千英子
久保内鏡子
小松 完
小松 隆之
小松 昇
杉山 春萌
野村 里史
前田 欣一
前田 秀女
間崎 和代
森本 之子
山崎かずみ
山中 晶子
山中 瑞輝

◆土佐山田町俳句会◆

紅葉散り門前屋台たたみをり
丈余にも及ぶ門松警察署
開戦日山羊が荒野のまん中に
晩年のすぐそこにあり枇杷の花
諸諸の落葉抱えて山眠る
柚子の香や安否訊ねる過疎の村
故里は限界集落となりけり
吹き晴れて星座ととなふ冬の空
柚子風呂に宮沢賢治暗誦す
被災地に届け聖夜の千の風
昭和期の古賀メロデーを聴く師走
猪除けの電流ながす峡の冬
高々と足場組み終え十二月

山中 明石
明石 菲生
安丸 慎子
森田 菊恵
森田 貞男
笹岡 英世
前田 三郎
大石 邦男
前田美智子
前田 小夜
橋本 昭和
樫谷 雅道
田村 一翠

◆今月のキラリ◆

軒下に暖簾代わりの吊し柿
秋の陽を受けて、軒端に輝く吊し柿。景色が鮮明で郷愁を誘う句である。

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。(ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句(首)以内)

▼かい書で、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。

▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。

▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782-18501(住所記載不要) FAX 53・5958